



主の降誕（夜半）（ルカ 2:1-14）

救い主はあなたのそば近くに

主の降誕おめでとうございます。今年のご降誕を「人間にいちばん近い場所まで来てくださったイエス」とまとめたいと思います。私たちのためにいちばん近い場所まで来てくださった幼子イエスを受けとめ、人々に告げ知らせましょう。

今年、私たちは生涯忘れられない体験をしました。それは教皇様をこの目で見たということです。身体の調子その他で長崎での式典、あるいはミサに参加できなかった人もいるでしょう。そんな人も教皇フランシスコがいる場所は、少なからず見覚えある場所だったでしょう。

原爆落下中心碑、西坂公園、県営野球場。どれかはわたちがその足で立ったことのある場所のはずです。そこに教皇様が同じく留まってくださったことは、田平でテレビで観ていたとしても、それは教皇様をそば近くで見たのと同じです。離れていると言うなら、ミサの会場にいた人でさえも、目の前で見た人と 100m 離れていた人がいました。それでも教皇様をそば近くで感じたのです。

わたちがあと 10 年生きてとしても、これだけ近くに教皇様を感じることはできないと思います。教皇様を身近に感じたことで、ご降誕の神秘を通して、神が人間のそば近くまで来てくださったことを想像しやすくなりました。どんなに願っても、神がわたちのそばに来てくださることをわたちは要求できないのです。神がわたちのことを深く憐れんでくださったので、この神秘に触れることができました。

神はわたちの所まで来ました。どれくらい近づいてくださったのでしょうか。それは神が人間となられるところまでです。肉体を受け取る場所までです。弱さ、欠点だらけの肉体を受け取る場所まで近づいてくださいました。今年のご降誕はこの点に特に注目したいのです。

わたちは肉体の弱さを嫌と言うほど思い知らされています。年齢を重ねてくると、ものを落としたり、手が震えたり、覚えていたことを忘れていたり、本当に嫌になります。介護の時、良好な関係を保っている時は良いけれども、辛くなると当たったりします。そんな人間の弱さ、肉体の弱さを、神の独り子は受け入れられたのです。神が弱さを受け入れられたのに、わたちが現実を拒むことが許されるのでしょうか？

神の独り子はわたちの弱い肉体、欠点だらけの肉体を取られました。わたちは人間の弱さを感じたり目にしたりします。その時こそ、わたちが人となられた神の神秘を告げ知らせる時です。神は御子イエスを通して、人間の弱さをとことん受け取られました。わたちは関わる人すべてに、神の子が人間のいちばん近くまで来られた。弱さにまで近づかれたことを感謝して告げ知らせましょう。幼子イエスがそば近くにいるうちに、神の不思議な救いの計画を人々に知らせに行くことにしましょう。